

「黒木小学校の黒木鷹踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立黒木小学校

2 学年・人数

小学3年生から6年生（計12名）及び中学生（13名）計25名

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年11月25日(金) 本校体育館

令和4年12月14日(水) 本校体育館

(2) 発表の日時・場所

令和4年12月17日(土) 黒木暮れ市（雨：本校体育館）

例年は、黒木コミセン駐車場

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

黒木鷹踊り（くろきたかおどり）

(2) 由来

昔は、上層の武士が行っていた鷹狩りを芸能化したものであり、もともとは、鷹狩りの餌食になった動物たちの霊を慰める踊りであったと言われている。

(3) 構成等

すててこ、笠、扇子、鷹を模した道具を持った鷹匠役（男）が器用に鷹を操る様子と笠と着物を身に付け、棒を持って鷹の機嫌を損ねないように餌師（女）が補助する様子を、三味線や太鼓の楽曲に併せて踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

黒木鷹踊りは31年の歴史を持ち、数年前までは、黒木小学校児童だけが踊っていたが、校区の伝統芸能の継承の意義を考え、12年前に保存会を立ち上げて現在に至っている。現在小学生3～6年生12名で活動しているが、踊りの練習は、地元保存会の永野光輝氏を中心に中学生にも力を借りて、踊りの指導していただいている。中学生が小学生へと黒木の伝統をつなぐ形をとっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら黒木鷹踊りを継承していくために、学校に「黒木鷹踊り保存会」事務局を置いている。副会長に黒木コミュニティセンター会長を置き、「黒木鷹踊り」を継承していくために地域と連携する態勢を整えている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【小学3年生】

今日、夜、体育館でたかおどりの練習がありました。ぼくは、はじめてで最初はわからないことばかりだったけれど、せんぱいたちがやさしく教えてくれて、少しずつおどれるようになってとてもうれしかったです。

【小学4年生】

今日からたかおどりの練習が始まりました。今日を入れて練習が2回、本番（くれ市）が1回あるそうです。中学生の上手な人をまねながら練習すると、あっという間に踊れるようになりました。次の練習もがんばって、本番でしっかり踊れるようにしたいです。

【小学6年生】

鷹踊りの練習が始まりました。ぼくは、5年生の時に転入してきたので、今年で2回目です。去年、はじめて踊ったときには難しいと最初は思いましたが、先輩たちの踊りを見ながら練習し、踊れるようになりました。黒木には、とてもカッコいい伝統芸能があることが分かったので、ぼくも後輩たちに伝えて、この黒木鷹踊りを守っていきたいと思っています。

【中学3年生】

鷹踊りを始めて6年が経ちました。小学生が、一生懸命練習するので教え甲斐があります。一緒に踊っていると、リズムが統一されるような感覚になり、一体感が生まれます。同じ動きの繰り返しですが、とても楽しく踊っています。これからも伝統の踊りを残して行ってほしいです。

【教職員】

コロナの影響でここ2、3年思うような伝承活動ができず、困っていました。今年も大楠神社奉納や運動会での披露がなくなり、「なんとか伝承活動の場を作らなければ。」と思っていたところ、黒木暮れ市の開催が決定し、出場の機会をいただきました。2回の練習を経て、本番の暮れ市で披露することができました。初出場の小学3年生の2人もしっかり踊ることができました。

【保存会・指導者から】

年々、子供の人数が少なくなっている中、伝承活動も難しくなってきますが、今できることを精一杯やって、後の世代に引き継いでほしいと思っています。